





名所方角集 坤之卷 目錄

筑前	讚岐	阿波	和泉	大和	河内	攝津
四十六	四十三	四十	三十二	初丁	十五	十七
筑後	豐前	土佐	紀伊			
四十八	四十四	四十一	三十三			
肥前	豐後	伊豫	淡路			
四十九	四十五	四十二	三十九			

名所方角集 坤之卷

波野

因幡	播磨	備後	長門	薩摩	肥後
六十七	六十三	六十一	五十八	五十六	五十二
石見	美作	備中	周防	對馬	日向
六十八	六十六	六十二	五十九	五十六	五十三
出雲	伯耆	備前	安藝	壹岐	大隅
六十八	六十七	六十二	六十	五十七	五十五

上野	美濃	越後	加賀	隱岐	但馬
九十九	八十四	八十	七十七	七十三	七十
下野	信濃	越中	能登	若狹	丹後
百一	八十九	八十三	七十九	七十四	七十一
出羽	甲斐	飛彈	佐渡	越前	丹波
百六	九十七	八十四	八十	七十五	七十二

名所初集

三

陸奥 百十一
常陸 百廿一
下総 百廿三

上総 百廿六
安房 百廿七

○大和

。糸 良 晒布 油煙曇 堂扇 打物

糸ハ粒糸良此ナクハ糸細糸ハ
糸ハ佳ぬヤサクハ丹ハ糸良
糸ハけりハ竹玉ハ糸子切ハ糸扇
糸ハ良ハ重七半ハ糸八半ハ糸扇
糸ハ良ハ糸ハ糸ハ佛蓮

宗祇

貞徳

梅翁

芭蕉

木の根をせせりし麻乃角の除
眼小きゆりみりきししあ良の麻
河あきよしあふ良の麻
葉めておき育くくくくあ良の麻
仁翁
仙里
素外

木辻 鳴河

つきの後くくくゆり良の麻が
鹿のあふくくくくくくくく
甘南
玉圃

光明寺后市湯屋の物 河岡寺療ふ

陽あふくく療石と人ととる
佐保丸

猿沢の池 宋世宮 衣る柳

名月や池ひめくくくくく
あふ麻や新れくくくくく
水着紫被着て来一人の影
猿沢の目ふくくくくく
新くくく柳の池乃くくく
芭蕉
宗風
園女
蒼狐
津家

十三之巻

菩提院 見取

リ 秋と中と之終不情なる 岩

春日社。春日跡 山。里。系。森

春日社也若紫の地麻の子 李

四心のまゝおろす

今或日秋の扱法と云ふ山 甘角

貝山小松千乃打心秋のこ 岩

ま櫃ささてハ細一ノ麻乃声 希固

守りし麻は春日此神のまき 春郊

三心立山

若草山

見さふしハ三心立山乃目 系 之家

名目やハ心立しハ三心立山 沽例

降別表て月もろやたハ心立山 素外

羽貫山

羽貫山 乃風やハ心立の糧乃ぬハ山 七磨

大佛 東大寺

補陀衆之佛亦なり此下涼之 昌意
大仏の市肌のまねや日の色り
月影の山より霞し東大寺 父の
花の香や木くも仏の鼻此下 素友

南大門 二五 新能あふふのまこ 眞福寺

まろ多やと申大つれぬの目 貞南
南大門立ちあすれくち麻の声 正秀

管れるもさしや梅乃雪 春松

日向山 俗ニ八幡山也

日向をや可く祓りぬるく唐梨 政之

飛火跡 舟の鏡

山燒し流り火のまこれば 春藤

え真寺

を結ぶ之由もみ塔の怖が 牛谷

初瀬山 川。長谷寺 林泉と名の廻廊あり

春のおやみ詠人奈し半の隅 芭蕉
うかれかる人つや初瀬の山裾
なまぢふ卯のつきさくら川せ山 去来
松尾の公家の子達を初瀬山 尺牘
あむらむら画轴 あり初瀬の繪巻 希因
初瀬の繪よみおと あり詠

伸よる松ぞききしをいせ山 荻原
橋ハ注神の重さう初瀬おろし 龜仙
ほろおち耳ふ向取のほろおち 不祥
山にらうし人行く初瀬の化袋 素外

愛之の梅 花五木のあたま

梅の香やさきあらししは梅をん 園女

依りて後。三痛う橋。三痛川

うたをいぢり我ハ胆あくる病は傷 乙由
才乃乃花よさるるときこの痛く寄 蓮谷
弱とめよ更る人なすくふあぢ深き 素外

。三輪の山

神岡山。市。里。田。きし。の。夜。素麴

村けもゆ痛のそるる事くひら 只南
素麴より帷子乃裳衣の那 乙由
二のりの杉乃ふくち茶蘇の裾、
山少佳の湧りあけくろこ痛乃山 素土

里の子ハいらこの針ときくし危 希岡
輪の團の杉よ疎るや三輪北秋 不祥
心けり蘇志杉お畑もる病の山 亦丹
索麴れいもふ新や三輪の里 弟路

玄賓傍於菴地

水の山陰にま

ふろ新よなげ山位乃雨のつ 素外

。布留社

十握の紐と糸うなるこ

いづの神ありくまを御神作 季吹
弓より鏡を平より御く枝のま 活徳

。左原寺 布取里にま

傍狹の舞ふ向ふ落のま 其南

絶有常宅地 別所村畑中ニ井ま

里北子の源の涼し 尚井筒 乙中
尚井筒朽ふくりにま昔の花 希因

飛をうると月井筒の松をち 換ル
昔御と神宮のまぬかきと

法隆寺 南無仏の太子日舍利

水袴のまのれなるし 紅の花 千那
夏夏所為ふくく耳の好蝶ハ 涼佛

。辰乃市 辰の日の市より西と

娘の書も日いそぎるま辰の市 津安

立田山。立田川。かき川。氏。里。

立田河うくも浅く濃みち 秋田 志

ぬきうをふ風もきく波立田川 政吉

深川に紅葉ふし心へ川田河 貞

立田川もきく朽す赤穂 方

ちりみ浅里の縁も立田山 春郊

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

立田山。其の神。立田山。其の神。

葛城山法螺母も積るるもとき 龜山

○二上山

大坂山氏とも名 新中二回名二

二上山樗か〜けし葛のまき 亀取

○畝火山

俗二指明古ト云

耕り風ふ〜のまきちる紅葉 丸室

○耳梨山

他二くらなりし 俗二天祥山ト云

見猿のまき耳なる山は秋のまき 洞和
唐のまき耳なる山乃推又た 存茂

○海池

深ももみあれ池のまき子 百景

○天香貝山

あ〜あし卯の花の流るる女 園女

○倉石山 丹後二回名

千やちりりし山れ雪の事 云笑

多武の峠 カクノヒヤマ 後峰 紅葉洞 大藏官社

帳行ふしきし多武の峠 貞佐

増望ふ人差 日不武蓋寺

此塚ハ程り 苔のつねもし 希因

細涼 朕涼氏

ちる者らとふ休し涼か 芭蕉

○龍の窟 仙窟の池に酒籠とてたま

龍乃乃とわよ戸のちをよせ 芭蕉
酒のふ通しんがた龍の花

○十津川

岩波と十津川きり小館ふ 閑菴

夕のふとちかきよるめく
 おのひつひしきくはくさくさ
 母の中より青い糸をよめる
 吉路やも只大層はたか
 ぬきまじく朝のまをよめる
 心ゆくは岩を電はくれう
 寄せとも何れもなう
 は癖の吉路もよめる
 ころころ花の竹はふり入る

尾法 吉路
京 園女
作路 吉路
京 竹翁
中 麻父

後所全集ハヨキテはよめる
 出さくく一里かきく
 よいおのふ花の木は
 ちかきく入る花の竹
 ころころ花の竹はふり
 入るころころ花の竹
 ころころ花の竹はふり
 ころころ花の竹はふり
 ころころ花の竹はふり
 ころころ花の竹はふり

萩松
 涼袋
 吉路
 秋瓜
 京
 富路
 千代尼
 春郊

雪のちりやあつさなりの吉野山 葉人
 斧の柄も朽むよりやうもさき月 夏葉
 花人と花人もあはれけしきか 吐風
 さる鐘もさきのよりやうもさき月 不祥
 みよのあつさもあつさなりの吉野山 津家
 こころのこころもさきなりの吉野山 笠衣
 白河のつらさなりの吉野山 夢衣
 空の又もさきなりの吉野山 夢衣
 花の眼もさきなりの吉野山 把業

抱いてはあつさなりの吉野山 露衣
 懐かしのあつさをさきなりの吉野山 玉圃
 春の風もさきなりの吉野山 素外

吉野川

吉野川よきやうもさきなりの吉野山 山彦
 宗鑑
 よきやうもさきなりの吉野山 別常
 春郊
 吉野川よきやうもさきなりの吉野山 順義

眼のおとあまハ申くこ吉原川 乙羅

吉水院

形まかまめしや釘とこしの一とま

あよりしあし結文首白ころろ 超波

岩り釘たつやま何のし花乃奥 甲長

養正寺

田家

初をあるしや結五此花の下 存我

あり路まやとらとて

結打てらふしよゆせよ坊の妻 色慈

遊ぬけの塔

田家

こよしゆや遊ぬけて二木初儀 乙外

西行菴

田家

かしくの清水

まほしく公人よ流世まこのや 道直

まきゆれ木下ふ侍ふし川外

ちる花ふしく一庭のほろみ外 整谷

きふりてあるめし又水きたり 涼布
後ふ紀文ハ獨リナニ夏ニも 平砂

○神振山

鴨野や宮より神あり山ひり 柳居

^{ニシカウノ}西河流 うちそ川よそ大流と云

ほろくそ山吹ちるを流のき 芭蕉
碓よとの流とありあま衣 平砂

○茶摘川

昔首や河ミとらとの茶摘川 せ磨
まのくやと流お茶摘の川板 園女

○大峰 役行者半

大いづの山よまの先達や別處京 可全
大の峰やよのゆき染れ花の采 芳良

關上詠

日影入一山くさるる詠が精正堂

○河内

金剛山

金剛砂 大和河内も玉りきりこ

千早岨後みそ

更り乃る金剛山も社の風 舎羅

親公寺

多雨粉 楠石岨

楠乃禮ぬらけー牡丹が 其角

道明寺

比丘尼寺 精 木摠樹

精あも鶴や情ず心冬日教 系房

院地了地

志紀郡の地こ俗よかふ

あけをれの地後りゆる木海元 尺軒

依田天満宮

昔葉の四よやをめくはと向軒 季の吟

牧方

考案ありて草のまんの牛房を吟

ひよひの著の乃く歌の當が 依徳

○撰津

大坂橋

涼さるや涼く歌て橋の川 来山

涼心よの心る涼の橋涼し 貞依

牛渡り心車八段の寸橋涼し 希内

夕すくみ月も浪をハ橋乃歌 希内

世ハ心花よ急くまわりの橋の歌 涼袋

岸のつる心う保めらぬ皮の口を 希内

川筋や朝も片道の所涼し 希内

遠路くわりの橋も昔も今も 希内

新刊集

信光の御子に備玉の赤やめしや
入母や四糸子誠まき道の法師人
素外

阿含陀地 信光の御子の赤やめしやの
大和国佐の池あり

新波のや佛の縁とよむ堂 有依

四ッ橋

四ッ橋の角三々をききつ月
縁とよむ四ッ橋は四ッを
来山

新町 よの煙波 砂場若菜

ほのくと身とる山灰やむの歌
川らぬ赤の花や梅う香男は道
松もしく通達揚玉の能取巻
地回 ト人 素外

本新寺 水津村浄坊 西へ 南新波は傍あり

海崇赤戸おハッ子おまき
史邦

名所句集下

神代集

神代集

たう川宮 今言律と云 湯豆三磨

言者おのりて受けハ踊分 貞佐
娘をよせし先名師のまうまうと 雪言

眺見

朝照る生駒武彦山ニ付向 法々

玉造福寿社

まうまうと今言福寿乃造了場 素外

北濱 枝葉ま一の糸市ニ

水濱まうまう川や朔風秋あ場 素外

天満天神社

神木此處をよや今も梅のゆ 大坂 重寛
誰人乃公はくくや画るま 花笠
娘は神や神のまふく梅瓜 素外

梅井 大坂 楠父子別れの傍に松山子の碑と
宿 さうまの里山城名あり

新刊

〇七

新所集

梅の影 かくる 圓や 梅の影 芭蕉

可

能因塚

古き村

公川の舟はたぐさきとあり 君香

○芥川

月今昔 齋かき入の芥川 三子風

○玉江

哉 兼小同名

世々々々玉江のまはれは 惟然
為の定宿とき玉江の那 後

○玉川

里 卯の花

卯のまはや雪ふかくれぬ川も 孝克
玉川も玉 鼓まらぬよ花卯木 仙風

○江口

江口の君は像とあり

やまの 八景 一付か 梅翁

名所同集下

〇六一

白色あざの舟乃空舟波 宗貞
川もみの舟乃空あざ 宗貞
情心あざの舟乃空あざ 宗貞

○長柄の櫓

かき此櫓ハ折てなまのりあざ

かきあざの櫓乃空あざ 宗貞
涼あざの櫓乃空あざ 宗貞

○歌

部 海ふらる清合多し

浦あざのりあざの部公 自堂

枯草あざのりあざの部公 自堂
苔あざのりあざの部公 自堂
始あざのりあざの部公 自堂

○歌

部 海ふらる清合多し

雪あざのりあざの部公 自堂
雪あざのりあざの部公 自堂

○伊津川橋 松系

月ハ年々引スル自ヤニラシクの後系 貞固

上巳

月ヤ目シク川の渡辺の辺系 康吉

初日ヤ似糸裁テその渡 市仙

○因心裏の詩

芦田存也 因心裏のかし福永三 連

○塙江 橋・延喜 今塙江と云ふはあはれ津村と云ふ

うらと塙江の橋は海世ハ 夕

四天五寺 那波寺・桑井の水 石の宮堂

栗の葉を歌ふ和ぬ花さうり 大夜 助音

そる鐘のともちや鐘も月の秋 好道

糸田辺のほめや花のめきたる花 天草 園女

鐘のこゝろをさる鐘や秋の鐘 文朝

白鳥を乃ちうらハ切し 七廿五 平砂

曙や仏法堂を御遊のそら 彦梁
未未死のあふいける遊者が 素外

。位吉。忘貝。後。里。清。吉。の。浦。岸。の。姫。松。忘。州。

位よりれきしませてゆきし子祝 紙舟
唯松のかさむし雪や信守屋云 すと
かき就うりては終るあらんはるか 糸 ぬ泉
位吉のまきふ付やす 蛤 ち舞
のりつら帆乃は終るあらんはるか 糸 ぬ泉

位の内やあかき結して浦有 其角
狗透てゆきを春の汐干ふ 史邦
子祝ニあめふハ法は有る言 尺牘
唯松も終るの終りゆきか 希周
位吉のまきふ付やす 春郊
位吉のまきふ付やす 平砂
位吉のまきふ付やす 中外
位吉のまきふ付やす 把業
位吉のまきふ付やす 乙雅

昨ねくも我代別原七月の眉
初をや今年の昨ねねね
月せよよいよい信まよまよ
初水
素芳
蛙鳴

。信土三社 四社し 及格 糸の糸

夏くくひ眼のひさくは信信
月花ふね 蛇りよの蛙ふ
古の道や神ふお拍ふ神ふ多
くまふても何の信接をる神ふ
嵐雪
汗六
路通
園女

涼しく心信ふ遠くくは神ふ
木の海や和まりの眼とまふめ
神信ち四ウ乃幣ふふのをも
信ふし乃槍ふ上くもまの信
幾や若葉えくく世く乃石灯籠
ね信し葉も信の心の神のあ
あくくくくくくくくくくく
宮司むかふ信代信ふらあ
まの神信ふくくくくくく
松架
琴郊
松架
安百
太布
平砂
輕舟

秋の細く行かひの音とる親 素外

高水 。後尺小節 方和同名者

夏野也一足とるりまきねあ 未道

長井小浦 。地

恐也あつとまむせ申の浦街 中村 一安

遠里小節 。他 位吉御社の仲はあつとまむせ

柳小川あま里小節の舟歌が 露沾

弁共々借歌文 尾崎山をるま

弁共々この馬心かつこの世も解ふ 糸伸

兵庫 。和田の伊勢・松

よの川むらさき屋お入せばの音 大坂 未後

鳴呼志信楠子之草茎 淡川

程みもはは社あり百人合の志
考
中し厚もを業水を岸の候
涼備
吟吟縁し名に千歳の石の志
志外

甲山

ほ山を也具是のちら甲山
市寛
甲山立ららるきを二日の月
閑節
上代のまも心はれ甲山
史邦

有間山

温泉 大湯女 小湯女 人形

湯長女は使は業の枝は哉
三糸風
陰もえよめくれ有るは志
志綱

出湯野

也
未ささひう啼こもゆら子規
丹波
正貞

西宮惠比須社

神作の朝も西園の傳持
祇叶

○武庫山。川。夢。後。浦

月の承地入まらぬをこの山 明石 如貞
むらさき 明石 申あかす
むらさき 明石 出るるあま

○柳影山

石出のこ 山名 同名

山白し満よりも柳影石 枝影

○布子の籠

漆合ぬ布子籠や籠の秋一色

○縄の浦

縄乃浦登堂子の網や干煙草 言水

○菘乃梅

生田社のあま

ニ交のかけや菘乃梅乃梅 同梅方 正武
ちりの梅や柳の太く 涼袋
吸る梅一枝 梅の 龜文

新刊御集

九

。次。麻石。夏。浦。里。上。邸。

家。事。も。あ。ま。り。な。し。の。ま。り。は。昔。 貞室
 宿。の。浦。や。師。の。果。不。知。め。り 一鉄
 又。ふ。ま。り。人。う。し。ま。や。は。の。京 言水
 月。代。や。昔。の。ま。き。は。の。浦 鬼貫
 か。い。お。た。道。ち。い。ま。の。ま。り 芭蕉
 月。と。ま。り。の。お。ま。り。い。ま。の。ま。り 素書
 葉。の。ま。り。は。の。浦。の。ま。り。は。の。浦 酒和
 は。の。浦。の。ま。り。は。の。浦。の。ま。り

家。事。も。あ。ま。り。な。し。の。ま。り。は。昔 秋
 宿。の。浦。や。師。の。果。不。知。め。り 其南
 又。ふ。ま。り。人。う。し。ま。や。は。の。京 杜西
 月。代。や。昔。の。ま。き。は。の。浦 涼菖
 か。い。お。た。道。ち。い。ま。の。ま。り 柳居
 月。と。ま。り。の。お。ま。り。い。ま。の。ま。り 菘菰
 葉。の。ま。り。は。の。浦。の。ま。り。は。の。浦 梅郊
 は。の。浦。の。ま。り。は。の。浦。の。ま。り 春郊
 宿。の。浦。の。ま。り。は。の。浦。の。ま。り 扇良

新刊御集下

九

お梅ふゆもーと望くはは海士 秋也
松風もたされぬおの午も外 涼袋
博よもよ今らうと松もたけりき 秋色
杉一本ありし秋もはるの月 赤外
弓もたふ豆府もたふもたはれま

吉戦場

千急ふ鳥のあふはらりてとて

頂上の雲下とあふた紀の帯もたぬ 色意

山乃目しはるもあはれし 春律

一乃谷 二の谷 三の谷

一の谷小休く月や海おとし 正律

帆のぬら風も梅たさうき 涼袋

そらき合ふ谷と一二乃谷もたふ 信佐

敷盛の墓 海邊(い)ま

新牛きに石紙積りし浦の音 貞佐

藤のしふあそい 情心 昔も今も 源代家

志度の墓 約林村に在り

志度此右の腕也 山梅 牛寂

須麻手明石 明石ハ接別カレト傳フ事有テ
まのあよりちんをけり

日やほつ照石の系以をしく 風虎

蛇牛角より己けよほつ照石 芭蕉

山うけく卯のこころはほつ照石 友成

形代也とくも府角ハほつ照石 石築

○和泉

塙 後焼物 漆代 鉄炮 出産危下

まきもや塙の所乃すはら兼 小栗

波塘より海乃塙才まきも 雀子

高須 地こくともくおまめりうり

ゆりしらとてあき地獄一休

まふまふ人もあさうめやい 地獄

今ハ名北宗意くこり

足代器の素衣 宿名のふんを括ぬ 素外

大之禰 妙玉寺ニ云

大禰と名つれ一程の禰禰山 夢大

水間寺 観音

そのめりやあつた後のりき 古曆

。 蟻通社 帆あうし松 色おけり松とを松とから

橙紅葉はうこあうや蟻通 三系風

けし〜維なとのめを蟻通 この木固

不ししやゆ蛇ハ明の星一 大坂 布つ

雨をしお梅しあかな〜蟻通 不遠

雪ろ之を酒をよと詠くみ日宮 素外

○信太北出林。里。ふ枝の御。首

く結の首や信田の物色塚 秋廣

首の紫や梅ふかすの床より 高風

首の紫の匂もわけてる床に 蓮谷

とくくふ信田の首は若きか 不送

葉の菊ふりぬ女や夏の秋 赤雲

○紀伊

○紀乃川 ぐりや川の集こ

きしうりや集はくふや言世目 夏用

○妹脊山 別妹の山と云あり一説妹脊山矢和とありれと方角抄に倣いて定ふ出に

別あつて川の筋涼し妹脊山 柳を

妹山の脚しあうやふれ月 乙姫

くおわぬく妹脊の山鳥 素月

四寸岩子孫名に不動坂

鶴鶴の小鳥告めや四寸岩
あまのつらみはあはれ涼しあ不動坂
貞徳
志士

女人堂

けふのうらむ女人堂割こ

百合の女は唯と子名ふま居る花
あまのつらみはあはれ涼しあ不動坂
乙由
貞徳
志士

○古岡野山金剛峰寺

佛法傳 古砂 岡茶成
氷峰 万年草 珠教

形梅れ傳法の師也三結の松
老木むらさき跡平 兎橋
父母のまきりいさる 龍の音
卵塔乃るをま居る安ん神を月
商人のむらさき色まきり跡山
小六月ま居るの地まらさき水
懈ゆるめまきり字世の道北
蝶まらさき命まらさき衣
涼徳

○玉川 毒ありし 田舎

珊瑚珠も破れて流せしは清水 乙磨
遠くへよ絶岸の玉川水はとも 乙瓶
あはれ月ふ春あも欲乃玉川也 素外

柳廟橋 俗ニササきの橋 蛇柳

赤眼あも柳とらんえし涼きよ 乙由

奥院 岩の堂・岩の洞 大師入定のふし

奥乃院竹やち揚りよふこき 宗凡
ちる花ふ此若知り 奥の院 杜由
花も咲身も啼しも松乃奥 素外

○若浦 夜・夜木

あめの浦や汐濱に因寄る御定 乙武
月も光きしの思ひや初寄の浦 正全
あまふ初寄の浦あも遠けり 芭蕉
あまな鳥城のあまふ深とる 沾徳

浦の波絶え井もくまの浦より
 枯草の存性よりしおろす浦
 岸をくし空より足の元
 漁乃白飛も負しおろす浦
 若の浦小人居るもやゆき
 乃名はけりてとせむを平河
 おめをし序男波とひなをせ
 ういはちり遊てまけりし浦波
 重なりぬきくかす男波
 八州
 貞山
 吹雪
 素外
 宿願
 残雪

玉津の神社

伽羅山一山二石の鏡山

他は石をくし海より波はてぬ
 夕景もやありて浦をわづらひ
 接儿
 素外

絶三井寺

浦のまきより一室を絶え井る
花雪

吹版の浦

和泉丹は同名の名不あり

名所考

若ハ川吹瓶の目以振をカ 可南
片身もさき一吹瓶れ音の声 岩箱
網形も吹瓶のうも吹くれ 捲儿

粟津社 加田

津屋のん雄と女もまの信らとり 壺瓶
一對の配り巻もそ高もまの浦乃彼 捲儿
何なりと箱ハ持し加田の海士 兼外

由良比耶山。隣。門。丹後。同名を

仲津向書る。中津の海邊。一。心

筆拾松。高白山

筆拾松乃さうが 高白山

雲取山

雲取山 高白山

。那智の滝 山。後新

流津もやみ根ふる有てはなる 高風

くまのつらさちひて

天喜よりのの滝乃かまひが、

。祝世より 日新宮

流ハ汗補陀尾くまの林原に 平砂

。流もは助 平家の末葉とて流地あり

川昔のた一時もたぐはる 嵐雪

。熊野浦 山 蘇 野原

もりのたなは山原も高を録 正持

。茶深福三墓

ちのるしや死ぬる茶深福三の 蝶之友

。ちるたの川 山。瀧。里雄の山に

月あめく柳晩りて暮る河 三島

道成寺 世に知らぬ物あり

はるのたね おとろふ 芝栢

とてある一坂

はるのたね おとろふ 芝栢

○ 沿路

沿路 どのと

沿路 どのと 徳元

沿路 どのと 三平

沿路 どのと 仙代

沿路 どのと 曾小

沿路 どのと 貞佐

沿路 どのと 海如

沿路 どのと 乃翁

。緒くち也。海

あつしき子のめを海きし浦衝 柳葉

○阿波

。鳴門 大鳴戸 小鳴戸。浦

鳴戸時もくは海の松は海 三島風
徳徳師阿波の鳴戸と小鳴戸 其角

鳴の音も偏るはれし浦衝 氷花
波もゆるり入るる入るる毎 山夕
秋風の音も入るる鳴門が 百和
部もゆるり入るる鳴門が 葵是

○土佐

。土佐山 檜 檜皮 帆柱 四玉柱

名所南集下

〇里

あの雲のさ思隔てよと云々 小知

○矢野く神山

萬葉して多神く神山神家ぬ 其業

○伊子の湯

伊吉 天子浴くしあつし云々

湯小羽平の原の例も原しよと云 太布

そと途く伊子の湯木のハツリ 千外

○横波

宗の湯

形原と湯ま石 回石 佐原 湯原 湯原

五百とせれ名は湯原の湯原 宗風

今つと久くめの拾をは羽ぬけ 原袋

志波寺

志波寺

玉波や竹のうきし津の声 三石風

屏風浦 西の松

浦の屏風は打合せをみすか 三妙 元賢

世宗の跡ぬ木坊をこぼり松 三平凡

松尾のまはは幼女のましの松と

清塚

秋と鳴りやけ女の魂よこし 宗凡

象の山金田に大権現

花をし律の感徳の象の山 三ツメ

あふあふも幣の合のまきれ月 中外

提帳涼し浪波の鼻乃象の山 津家

○豊前

○鯉次。浪。古。葉の池

又哉んと来乃古坂秋と 文考

○丸山 靈仙寺 暮本 山麓あり

丸山の嶽やまなびの地

豊前町の麓

神通坊阿彌陀一尊あり

御正也

今風法公乃はらけり

○宇佐八幡宮

程の身も多し 縣の

羅漢寺 きら也 石佛の外も石仏ありし 本堂空室及び堂の角

山乃五五枝の

首のふれ秋の

州入とけ

濱宮 細谷天神

よとる

名所集下

門司の関 此古赤間といひし所なり今ハニツミ
に改てふまは八幡宮の地ニシテ
父之の通判あり門司の関 宗風
昇り此の所より此の城跡に 支考
神石も一考又由く子字の関 乙由

○豊後

玖珠

昔の水不玖珠の石の面白 支考

不知火 甲の浦に大ニツミお磯かきしに
八九月の比ありし
きしぬちや波の跡に雲しは 意え

○筑前

水老の関

水老の関

名所集下

水老

ふらふらの名や一対筆津虫 一六

。箱崎 松 八幡宮

おのゝや松のぬきあむお徳 糸風
お崎ふ海く州乃花あは 涼袋
幡乃流あくるもる松一坂 校録

。生の松原

雪以徳てきぬせらりせの松 糸風

秋風の松よりそく生の松 文考
文の秋以何松ゆん生れ松
畑くらふまあなまはらまの松 涼袋
夏まゝぬき松あひさひ月乃松 松架

。袖乃溪 ちりうー松

唐紙を袖の溪ふくもれ月 朱秀
海川もあふ流やまろく星の帯 祇空

大宰府天満宮 安樂寺 飛梅梅のち

今も知れし神祇榊木の同来風 宗風

秋来ぬる霞も花梅月細し 祇堂

清く流るる水も如半やうりち 涼師

梅安不神とまらよと代このまゝ 扇良

身も梅のちりや匂ふ翠華の風 松加未

。竈山・大梅・沖山

雨空澄し花系ふらさこの山梅 堂山元主 弘有

火梅やもほろしのみは竈山 宗風

穴あけて中し棚もや竈山 花若

。翁岩 金ヶ崎

海寺の長不葉かくら急や翁岩 宗風

。香椎宮 神宮寺后安産の地し

鳥のちをち振や花と神の庭 涼師

朝倉の宮 山・ホを及る名のはし海に依る云
細倉や名もの、誰子郭公 猪俣

○飛後

速見の浦 里

帆ヶみ今細倉とやこの浦の秋 阿倉

千歳川 一取川 俗名飛後川 尾山

宿のよふらふとやあまのこを河 雲鳳

○肥前

松浦山 領中振山 佐賀 佐賀石海川

ひまはるにし雪らん事さよ姫か松 雲吟
領市さ北山乃さすまの海に依る 元隣

人の心を蛇もなれしは浦川 地所 素質
花とまじりし額巾安也ぬ時 素風
川みへ額巾あるふ乃三層葉 砂ト

松の岳

松の麓に白山の神と蛇を祀す

松の麓に白山の神と蛇を祀す 三平風

黒髪山

伊弉諾尊の髪塚を依中ト部ニ因名ノ
名亦云

神娥肩つる黒髪山の塚あり 三平風

長壽

三平の長壽の法をうねる事ある由記とありて

日原に長壽の法をうねる事ありて 紙堂
入るや皆もろじの袂乃風 涼紙
酔半お通伺へしは風の友

丸山 日所

鼻もく心懸いよ心花の孫也 素堂

三

沼尻社

昔と云ふは東て修る沼尻宮 去来
一八号二月號の名を昔外 文考

松中林天神社

神籙細袋の像也

社の隈や妻妙の跡あり絶 宗風
連派乃會下

幣捲神やも條のさくま

鴻原

雲仙山獄

温泉

地獄と考ふるも云ふ所あり
山麓燃てとあるの老杉半叶をん

温泉や湯女塚まめ師と 宗風

鴻原

岩ありや所澤の跡継乃る 宗風

五嶋之部

餘程まあると云ふ所あり
産物多し

福江の湯 湯の跡あり 五浦 拍浦 五津浦
餘さく身もすれおる福江の湯 宗風

名所物語集下

巻

大宝寺 日下 お寺を庵に中を庵とくしう
おしきせしよ

寺のまじりの花かんたむるあ 花菱

久かたき

誇りのまじり青けくらかたき

奈るまじり お神を穴とまおみ私のまじり書不
あり

まじりまじり仲とまじり眼鏡

申通の鳥の目浦 香川浦 乙卯

日一もや誇りたる魚の中へ

布川の流 日下 岩殿を澤人若山の流
名をしり

唐語の何れを岩殿の流涼し

久かたき 山の嶽

おのせまもや魚乃知ぬ嶽の嶽

名所集下

○肥後

兼池川 昔

山と河の神のともなる兼池河 宗風

河之後山

社也 伊岳温泉ニ烟穴を

河之後よりある月の伏所と云我事 宗風

名月のほまのうれある河之後山 宗風

言妙乃もあるも松の下納涼 宗考

○八代 也 宗考

やひらうや宗考の秋も今も 宗考

江津川 川上よりある海苔の

苔の名乃月也縁し好むも 宗考

○日向

名所集下

宗考

岩屋戸 豊玉姫の産ありし所といふ社未だ
岩屋戸の由ありし

岩屋戸たてはしきとせ神お歎 被岳

速日れお峯 岩屋のこ乃山と松屋より

昔のおおひくとも速日波津のまゝ、
夏のおおひくとも速日波津のまゝ 支百

御松石 岩屋の前の海中にあり

石や心く鴨はく海の面ひ松 被岳

千鳥の磯 岩屋のりるにありてありし

探さるのち啼の聲乃磯の系、
木の葉ちる影をふるもく庵のあり 支百

柳觸峰

柳触峰 柳触峰の月 被岳

吹井の浦 鶺鴒石

しららたや風ふ吹井たゆ挿根 鶺鴒石
鶺鴒の枝マツノ小馬山仲の石

母堂長川 目下 鶺鴒草曾不合なるは産湯

マ戸の子れせらまよし 母堂長河

報の丘山 系地あてまよハ挿根なるたかき
馬名同名の名おあり

山をせ報の丘山はまよし

鈴の嶽 辛卯三月十六日冬丸王

やまのりく山は系は鈴の岳

梅の嶽 昔とら梅枝おあり花実地は梅

梅の香ふるかれく高る嶽嶽

松り原 あま紀う系に梅の山戸
み海あのみなるともり

海苔の味何を起るや神心 交百

○大隅

宗毛木の歌

ろらら何とかなけき此木の榊声

貞室

榊の歌

花の名ふたどと深やあらう

薩下 深也

○薩麻平

○沖の小流

平原に流るる一水也

以風お告よ小名ぬき仲鱈

市仙

棒乃棒

持の棒おき振りよばおき

性温

○對馬

○井邊浦 井邊

名月や々宵城井のま乃浦一巴

○莫乃山

莫乃山や海乃何々ぬ招麻の夢 雅郊

丁啼や莫乃山は夕風 何外

○尚の山

尚乃山や花の香は心ほのど 老言

○さき波

○雪の流 牧のお牛 おまひ松 がそ

あそこは岩ふりあす さきの流 雅郊

○風女

風女ハ吹矢ししけ雨のふ 蛇田

○呼子の松原

松原や風流あはれなる 栗見

○天乃京

波向しあそぶ秋の天の意 射馬 竹波

○長門

早鞆社 和布刈社。赤間宮と云

比浦の和布刈とやふお雲 糸風

住吉社 猿ヶ系けおなるところ未詳

涼風社 室を神社の女侍と 三好風

壇の浦 平家没落の地

浦の石乃きんくくゆちやん京重久
 陸小涼風以の八百歩平家蟹 幸風
 を詠詠の道すやけ浦の秋 支考
 秋の神々ももも嘆く平家蟹
 付死の泣い涙を小ね千を 新波
 月ま心やなみし清き都を 涼袋
 榎駒ぬ都をかふし 清橋

清の松 何れに

くまき乃やの松の秋の時
 行く来て松の影をさすの影 涼袋

亀山八幡社

名世のちり神松風やるうと 涼風

○周防

岩國山 さうきん山ともいふ。馬場

岩屋や世ふ知る事此山に於て 滝光

化粧坂

百合の花も亦も亦も化粧坂 支考

若菜の後の御乳 支市

五月雨も雨も梅の露も亦も 支考

依路、磯田

僕々も小山も後の雨も亦も 支考

眺を

あり女や馬場山は是れ也、

○安芸

○ 養老社麻 白幡白幡 下と後下と後 一丁付ハ

風の樹陰糸乃席やいつく清 涼
ま清も廻糸乃席のぬやま紀 涼
灯籠やいひく雪山波乃ま 涼
貝湖を甲や糸乃乃山あま 涼
いさや久をまのまあまのいつく清 涼
追風波行れ涼しき清 涼
心席の影か涼し仲の虹 涼
海涼しるハ灯の甲乃乃涼 涼

ささやまの月の光りしときの海 石線

弥山 山こ

雨の空須弥山と安藤をき 涼
山とくけしの暮る朝白外 涼
月も今や西くれなるお涼 涼

○ 飯後

名所初集下

〇 涼

○ 鞆浦 磯の室のホしよあ

左右の泓のいあ

左の舟の梢ふ茂る連理の江 三つ風

あーう原 新地浦に浮網

うき網の舟の楫あ三四月 支考

○ 備中

○ 吉備の中山 吉備の中山 葛代山 田三河 細谷川

吉備の中山 備中備中の境 一鼎

吉備津彦社 谷屋にあり 釜をばはと 彦彦

蜂のまもり 備中や川 壺の山 壺き 壺え

壺をのり 壺ふ 壺乃 壺 壺 壺

○播磨

岩の根の松

天橋至境内三木松原うへ松林路

雪のけりも根もくさくさ石雨

梅翁

五月もあふ屋敷の松や庭の松

宗風

草も草もわらわらもささるる根乃松

可久南

ふきこもれ松のたてまゝくさくさ

涼徳

若松の根もたてまゝくさくさ

庭良

六月もあふ屋敷の松

不言

縁もぬさくさや片松雪の松

素外

○静の窟

静の窟の窟

みくさる石乃窟や花の窟

涼徳

流神の窟

滝川や松の窟はのど

宗風

高砂の浦 倭山松尾此港松之浦の川あり

かふのこをこすゆハ玉乃錦松 京 受一

五月もや尾との錦江流雲 風虎

錦江乃満中乳や陣野云 二子風

杜了言錦尾と二世津市 如芳

初色もや松とふめて佳も智 中外

黄と山ゆ小松とて圓かこも甚 素卵

書寫山 如教寺

書寫山 山に松ありて松葉 風子

何とを何何何して帰る 涼師

室 津。海。泊 物津二同名あり

蝶ましく新沼乃室や風月の津 二子風

揮ふ保て松も長し夏の月 涼師

明石乃浦 泊。歌 温純

二都也明石此舟のかさきん 紙舟

あきあきと梅を明に留るる花生羽 未覚

式部と移りよ

はふの争ひの石をさうらふ草のふ 三糸
かたきくに消りしも花す一り 花葉
袖を舞やしものかきしき夏は月 素堂
ちかにも明に北朝のまじさうり 素堂
ぬあつても隠れる所ありさ木立 縁紙
あきとくひ ねりねり花は浮 素外

人形社 大念谷者

お家やまは世の持ちり子規 糸風
人形の舞やしおと仲ハ帆子 中山
仲ハ帆の入り目惜しむ人な忘 浩我
塚のよきおはのしんや昔はお 把菊
ま〜もよ〜のあつ〜心 素外

印南 海。三。おちのほろ

雨すすもさかきも初も花は望掃 正信

名所句集下

六六

浪山

常風く吹ぬの山きく色 三子風

○出雲

出雲社

かき地も彩る山をえ妙
中七ツはく馬大原一麻の身
大坂 三子風
春料

出雲山

そらゆくも月におくれとあも山 夏礼
けりも又晴しし山の上 寛之

鹿蹄川

時とけり空ふも山の上 夏礼

講団

和歌山也サテ系小國の初ん州 高風

河江 頼水魚

伯耆系二杉江の百あふせきすし 宗風
氷魚めしや雪のうら深筋向ひ 春耕

八重垣神社 在久佐の里 森

こゝめりやけのほまこめせ雪海苔 秋湊
八重垣の筆乃原やうく北風 三の風

八束穂ふくもまあまの村あし 祇宮

○但馬

雪乃三了溪

三了溪や何成市伝ふ都へ 芳良

翠の澤山

抱小籠ろしめや山徳のきぬ 市仙

芳洲 七味那瀬治を村の奥にまき廿二間斗下八雨

そよひまのよもや涼しげと名 涼山

板仕跡 回とら川山をまきまきとらりなり中央に

板仕舟も波のせき舟は村々

猿尾の滝 日徳山にまき廿六斗子と名ありの滝に石紙投てきとよま奇異の滝に

ちきりや石まき猿尾の滝の系

布一の滝 日徳山村にまき布七匹のまきと名ありの滝にちきりや石まきとよま奇異の滝に

布一の滝 ちきりや石まきとよま奇異の滝に

俵石 日徳村にまき山崎俵の山口にまきと名ありの滝に

米秋と接むの縁は俵石

○丹後

九世戸

切戸氏 文殊閣 御灯松 哨の香炉

一考メの切戸と姓もほろこし 乙由

○天橋立

橋立神社 破法水
橋立の松系は橋立の松

橋立や杉より魚のせて月夜子 三子風

橋立やきりきりぬ松乃一文子 霧川

橋立や海苔と土橋更雨の渾 沽例

橋立の松 けしき 柳橋

橋立やあふらゆきある 雲泥

鴨のよきまじり橋立のゆき 平砂

はらきやしらぬきもあやむ 宿廊

空やの天の橋立も勢は中 津敷

○浦戸 ころ江

瀬物し浦戸の舟のり 昔歌

由良溪 山椒大まう同地ニ帝ノ墓
絶行ニ同名の各所あり
淨段難のほふなり 溪あり 蓮谷

○丹波

丹波路 栗山椒 七七二

丹波路のほふなり 溪あり 津家

大江山 丹波のあり 赤石岳 十丈の山なり
鬼ヶ岩を伴鬼ヶ津山ハ川と隔てたるこ

定良 自室

大江山のう布城とて 定良

湯とて 鬼ヶ津山 定良

○千年山 林茶の里

子とて 緑を以て名にせし山 紙叶

○村雲山 里

丹波路集

すくもくろあじあきのたて 紙叶

○ 隠岐

後鳥羽神社 治前

世や昔目さくし村時由 佐藤丸

タリヒ 離大後隠 海部郡に在る隠岐のあけ柿小形丸の宮に於て此の紀夫に記す

海士の夫也神乃事社あるは月宮 雲鳳

○ 彼之岳 此の山あり

一挺乃彼之岳やをけし人

○ 若狭

○ 雲之濱

雪の溪初冬の道からおに 山流

八百比紅尾

小湊堂印寺に伝へし也俗人急と
くして世を世とす

並くするく 杖を千なる垣懸 如竹

○後山

とつ梅やき余るくし 梅山 芳太

○越前

湯尾峠下 美をくも 瘧疾のちりとあまし

月少名紙色くのみてあいの神 芭蕉

夏あふといもやまやうて神さし 深袋

雪敷や酒湯の流乃をそ吹

○角鹿 山。浦。溪。お梅紙川流の大湊こ

一葉江ふ枝乃帆鉅体めより 三島風

宗比神社 誓り二世上人はくらうまひと

月清一遊ひのわらうらぬ乃上 芭蕉

待の邊の

あつねしはくもしおねの待の邊 但る 安成

り色の邊 まことのお貝

淋きも次への待の邊 芭蕉

糸よあうやまことの邊 あつね

卯のよ乃海のとかりの邊 支考

浅水の橋 あさみの川 あさみの川 尾戸の橋

あさみの川も月々の旅の邊 芭蕉

玉江 玉江 橋 橋 橋

月をせよ玉江の邊と川ぬえ 芭蕉

新風をさの玉江乃浦とくき 乙訓

新並ふ海も玉江の邊 支考

名所句集

日知山

いよちをたしむるやうにわたりて
父立のききもむかし日知山
傍りやかこむるは日知山
金丸

近羽川

川そのは秋のこころを豆ね川
支考

帆山寺 府中

千の條をくけて帆山寺
支考

野坂山

神皇系を雪をよそし野坂山
支考

○加賀

金澤

名所句集

三

初鍾也市の巾ひく浅也川 深草

小松

き厚ししち名小松ふくと松厚 菟葱

。深原多因八幡ま実登う纏おししの程と糸

まね松の頭まとの刃ゆい糸甲 三糸風

むらんやふ甲乃下れまを 菟葱

今又所の跡まがりの宛 乙由

安宅 松 冥

徳家おちしぬ色は黒い安宅の松を 三糸風

中との養之れ水骨中と打と紀大坂 晚山

。白山 格現社・雷の寺・まじしのみ年
石二のまは清る日おれとけ山の雲八清ん

ふ山も陰別りらさこの鮫 三糸風

ま山もちまきハ一おはくおに 菟葱

雪かへてあお松清しんこを 三糸風

。溪の渡 山伏

都おのふ流のこころも春風も 不ト

紫雲湯 山中 昔白雲は湯にひるまを病癒
しるも白雲湯といふ

山中も紫いもれぬ湯の白し 芭蕉
後をぬぬ蒲草むく湯は成り 支考
他人うめるを湯入の盤の煮 乙由

那谷親もまき奇石まありあり

石山の石くま白し秋の風 芭蕉

。比叢の松 西上人の寺あり

松葉もく風や秋の渡のこ 支考

。井乃浦

神をよこ一節くく井の浦 柳屋

○能登

筆写

筆写もよきはく月夜鳥 津師

○岩瀬の夜

急なよ月小岩瀬のじ船 飛郊

○依後

依後 金山

罪なして死ふの月も依後をれ 才南

○雪の言候

言候や刀より雪の帳けみ 太布

○越後

越の山 嵯峨。越の中山 越中。越の大山 越中。

越路 条下 越路 越の山 越の中山 越の大山 越中。

之月北地たるも越後の雨乃上 の災
 梓立て越の原をやとてたし 心秀
 はくろひのもきふしきこの平 涼菟
 日あたるまの夏あかしく山橋 涼節
 春を解やまるとしつ平おきむと 春郊
 多他もあまのなりぬんや城の人

何とて今越後語の第履道、
 何とて活しあはるる中一越の夏 不登

親高次 市方の海邊

人として親高次は、悲しや 涼菟
 保とさけはるる、まき出る親知也 涼菟
 う親もも夏をうと後ハ親高次 汶上
 親高次ハ通さし夏は海なる 金尾
 世何なるまえ

荒海も伏波も横も浪河 芭蕉

米山

葦の舟も米山に舟し一程横 三好風

七不思議之詠

暁シハウツリ小池

栢月本村山雲の田原をとりける浦亦乃
泡沫吟也

代も小池も暮しし神いされ 梅郊

如法寺村の穴

穴中をとりける穴の名を圓窟 寺の
側 穴ありをよむ石臼と白の穴
井の筒と立まきと和とかなとそら附ありとあはれ
首のそあちとありてあえに於梅井にて外へさしひきき

室小刀の力乃る也建あき松葉式、

暁さ小

多る寺村松の中ニ杉まあり 教書上人
の松を根のむるこゝに傳ふ

毛あゝかゝ移るもまの暁さ小、

浪の影月

角田の仲にあり浪の舟突く中ニ七ま
の形あるあり

月草の筆筆に持る也仲の月、

ハツ梅

小徳村にあり花一将に実入り生ると

ハツ梅も実りしを候よむの歌 梅郊

之度栗

安田に五一年に実りて実のり栗の系大に廣し

照る月も咲くしと交栗の花

かまひそら

見し時風ありて強めてゆれしを候とて候を候と

羅刀てじうへ早月此かまひそら

○越中

有儀海

波もあそ

海松のそらも神代もあそ海 宗風
早稲の香もやうけ入る音後海 芭蕉

多却の浦

崎。海。森

是米も多し月夜多故乃秋 文考

多胡の浦は打めくればなほ心 花簾

奈吉の海 江。湊。門

五月の夕山も隠れて奈吉の海 蝶羽

けあつとてめて

片舟ぬ海は声や奈吉有哉 城中 好風

石見評

立山と浪岩は海にめり あき

○ 飛騨

位山 うらわ木笏がらあり 古き塔位にて

父き島馬好来そら 京 一雪

位山越ゆく石もまじし 大坂 意朝

花玉 八山 と位山さくら 不首

名月も交りて 定数位山 之英

○羨濃

羨濃海

帛 柿 高 嘉 山

杉白ふちるも羨濃海の早味 惟珍

寐物境

羨濃をい玉境

少中号をいけいふみ 不角
をいせ寐伸と苦の羨り小 辰角

葉乃とふ老の寐さめむ兼ひ 乙由
宵の好はぬもて寐しゆい 平砂

乃盤高家塚 山中村と上のる

一盤とふくも時と羨人好 不角

不破れ舞 板庇山

火は扱也羨は中も不破の冥 西武
月の風を死てさしだ冥を外 幸長

秋風也 萩も 島も 不破の空 芭蕉
 花梅雪 偏と ちや ねひし 宗風
 稲妻の げ みる 刀さう 不破の空 高翠
 木の 葉かき 礎 刀 せよ 不破の空 素下
 旅人 ちや 向う 合せ 不破の月 亦因
 月利 一と ころ 宿と 月 如行
 穿ち 紙 承と 人 不破 此月 虚谷
 常も ちや 不破 徳 空 ちや 新 貞佐
 池の ちや 三と 色 不破の 月 五瓶

月とれと 浅 帳 亦 空 ちや 不破の 空 半梅
 燈の ちや 秋 此 ちや 不破 乃 空 不造
 好も ちや 月 ちや 不破 此 空 了因
 斬り ちや 不破 の 空 ちや 新 十友
 月 秋 ちや 其 上 涼 不破 の 空 花笠
 杉 ちや 月 ちや 不破 此 空 赤外
 舞り 原 古 戰場
 蟬の ちや 亦 ちや 不破 の 軒 原 不角

。 踊上の里 じりー遊女ありし地と

こゝろぬの別れ尻眼小鏡山	不角
そ枯とんて居れハるるの松と龍	乙由
何の松よさく言修ぬ者有りぬ	壽角
すせ極や遊女と逢えれ破るぬ	辰角
糸此まお別れ〜てまゐる旨	涼帝

物見の松

まき野う系

古給人うんの松〜恥〜也一後

あえん氏の松と奉りたる藤り外	不角
涼〜さむい何故松の木のまゝの言	貞依
念ぬる難方あつらふおぬが	老胤
名月以あえんの松と逢えり	旧室

養生老の院

百の事とくけはし涼院の庭 乙由

波亭

城跡や古井のほふえむ心 芭蕉

長良川

鮎鱒烟

又や類ひも良の川 此鮎鱒 芭蕉
おりのろてたかふる 鮎鱒鮎
都り河の鮎も 鮎鱒
鮎の面よ 鮎鱒 鮎鱒
松崎し 鮎鱒 鮎鱒
そららるるのりや 鮎鱒の公 不祥

鮎鱒はくよと 振てらるる 来道

三俣

三まこやけ 毎のきよは 乙由

いひぬき川

俗に糸ぬき川也

繭や考るる糸ぬき川の鮎鱒 不角

往来の松 加納岩

又よ〜と啼也此松の蟬 不角
松陰也此松の汗の入不 不角

。稻葉山

昔初平の仙地と云をき別れの
かよつてそ固創とば事との伝區し

立別れいかなせぬ中も海の松 貞徳
松風うあくひの末の杖字 不角
立別れ早もや稲葉山の山ろく 兼外

行平墓

竈上村と云

是こ此堂殿ももぬり末ぬ 不角

一春の清水

十廿小三三 法大師がたもこ

二人〜と云〜り春が〜岩陰か 不角

西行塚

大井村

昔獨を〜ゆ〜つれ西行塚 不角
早ふ天もか〜る殿と虎〜雨 辰角

○信濃

境橋

英法信法の境に十石峠とて下此に
こゝにおやき味ぬ物経る信法 不角

○木曾路 歩坂

木曾の信をよせぬくまの軒 芭蕉
くおん九旅めしおん木曾の籠
木曾山の尖り也こと呼ぶるを 二木

松雷も木曾此境のめり終 汗六
山吹も巴も出る田うらふ
木曾いそぎも咲こる大根 支考
乙をいそぎもあきる木曾の路 信 猿
初冬もまじ嬉し 田の木曾大根 信 如
こゝにおやき味ぬ物経る 信 袋
木曾川にやまの雪して雪の秋 芦皓
五日もあやみはまきの木曾此路 津安
心もくくく川き山若菜 素外

名所初集

二

玉唾留も木曾の山道の饅頭粉 赤外

男勝女庵

妻を食ふと上を食ふと

女男勝の月もやむ虎の角 不角

かぶ人坂

かぶ人坂

法衣の衣の饅頭粉は是れを 不角

合点坂 大難不

難不とい合点坂で括て雪の降 不角

小蹄、勝、二節、別れ屋を

清さの中のかり、小神、勝 不角

勝毒、八根の響や、み、勝 不角

勝を、中、白地や、み、勝 不角

寝惚の里 甚る美 浦里より約の遠ありて云不角地也

子規、村、か、る、勝、く、床、か、村、不角

旅人さると交ち狼の山おろし 不角
名も心も痛え影也亦陰雲 壽南
床も痛えの床は夢の心 芦皓

棧

ホウのかげの丸も棧也
昔海難の場所今終に飛の〜後をゆくよあり

かけ棧や今試う〜む苦う〜 菟慈
去方とれ〜棧は目も寒〜のれ次 越人
流るの松明やふよふ〜 不角
のけ棧や蠅も掛る〜の上 冬紋

棧や遠も〜〜まおの跡也 素外

約ヶ嶽

六月を消して八月の後山こ

木城川 日和也雪の約ヶ岳 圓如
海の香も林葉も汗と減る也 壽南
東海やち〜いふ夏れ約ヶ岳 辰南

徳息寺

まの腰 兼仲巴山吹の像を

旁に乃た右よ〜〜松岳

桔梗ヶ原 古戰場

固く死るゝの指骨も老腐が 凍袋
負てちる籠もあつたの輝

糸の鞆ヶ嶽

白くすゝ地乃よ家の雪の飾 不角

餅屋山

餅屋山しほくよゆゝる水と 素角

上流行神社

湖の東にありては 涇水ありては 湖の西にありては

下流行神社

春のま 秋のま 湖の西にありては

雪をちりや穂をかれ落の川流し 芭蕉

流石の雨よ波の各跡やナラぬ 貞佐

湖の底をくると久しき水 可言

月へいふや故とる力も流石跡 素角

和国上流

一羽啼てしりや田あゝの杜宇 古 柳結
 一身の傍し月の郷方 古 祇徳
 晴夜や月ハ浮世に捨れず 拙在
 月くえんも在ぬの海の雪 素芹
 物さすか月の田毎ハ白の傍 素兎
 文神の月や移るふの雨斗 不言
 五月あや田あゝ小舟の苗のこ 對古
 文神の月のもささく雪所 素外
 月さす日我は捨れや家心

善光寺

くらき光しりちを何んぞも
 葦や若く回るふり以明 柳結
 立田のまを何んぞもすまけ 探舟
 曇るさや白のまかけとりの龍 菴梁
 雨さすの佛ハ我まの光る外 素外

戸隠山神社

神の少し谷の戸後乃乃茂り外外
川川神の力力也也案案此此徳徳 卷卷梁梁

黒姫山

仲仲ききりりのの山山也也 夏夏未未立立 卷卷梁梁

浅間山

里 烟烟 音音大大山山燒燒てて 吹吹せせ 石石をを

吹吹ききおおもも石石ハハ浅浅間間外外 芭芭蕉蕉
川川のの山山ハハ煙煙くくてて 妙妙のの花花 万万子子

若若ははここ我我鼻鼻ととここををふふふふ 不不角角
雨雨のの降降身身ををめめ烟烟のの音音 春春南南
烟烟のの曲曲くく浅浅間間のの風風涼涼 涼涼袋袋
かかととああすす何何とと浅浅間間はは烟烟 春春郊郊
夕夕日日やや浅浅間間のの音音也也 百百丈丈
晴晴のの心心中中よよ浅浅間間乃乃夕夕すす 戸戸外外
己己とと浅浅間間ハハ遠遠子子也也 五五雲雲
短短帯帯やや烟煙のの浅浅間間のの山山 素素外外

子持山

言子山氏未詳

子持山何台榭木の松榭

不雨

難水山

坂盤根石

実をよむ難水の系を此子親

系風

よふこを吐くを難水の種根石

史邦

もん種石余は見えさやいし時多

辰角

○甲斐

甲斐乃白根

毎の庵

甲斐の根や畑も白き若たをこ

方摩呂

陰尾は結ぶ白根や重の畑

井風

富士浅間大倉積

在郡吉田に在
三五一とあり

夏山や三五一乃大倉積

丹風

文延山久遠寺 七面山 菅谷 凡穴 春家の院

月も道石もや 谷小町 文延山 京 徳宗

菅の若くも 菅一 文延山 井鳳

山寂し 蟬 又 自我 倡の管さき 平砂

石和川 石和川 氏 歌月石

夢も後小 出て 又 賦悔の 石和川 涼帝

結さ いぬ 石和乃 昔 始く とも 素外

。 後の山 抄の 祇 非海 意 岸に されと あり

月の 船さ 女 の 祇 也 かし の 玉 京 如貞

又 か ひとし 結也 後の 山 お けし 涼袋

浮 積る 舟や 舟 舟 舟 舟 舟 井鳳

今 そ 月 持 出 の 後 乃 ひとし 鳥 一

名 月 や 菅 舟 舟 舟 舟 舟 常梅

く れ とも ひとし 結也 結也 結也 結也 一音

秋 涼し 乃 とも 眼 舟 舟 舟 舟 素外

信玄古城

夏州やありし不花元の玉成床
今身は帷幕の内も秋落
秋風やけおる窓控りて
素外

酒折宮

連子の歌は空よりはけ松も夏
仰きんら歌や城も雲の月
素外

二水川

山も若菜川もよふ水は
素外

那内 後宿

尾端の蘭干も奥の若くは
汗六

猿橋

猿橋や月も夜もぬ水の音
素外

○上野

白雲山

妙義大権現 岩山より律と云ふ

妙義杉小鳥花さるんを郎云	宗風
月小刀さぬ管さるんと天狗身	不角
傍心の印心ぬさるん花石板	寿角
お奉るや蝶と石をれ日幣	茶狐
おもしれ花とさるん也	糸外

松枝

ね皮や焚かみみら此梅梅 芦皓

○横蹄

武蔵日各あり

むじまの浮ぶ横蹄を草叶 不角

烏川

梶の花百哺何く寸川 不角

夕月や鴨もあふ河小鳥川 露水

○刀祿川 底は溜りてくみせきとて濁り 石少

夕月もや形紙研流も刀祿の寺 輕舟
坂東の一番田舎やた糸河 小樹

○伴香保 沼 温泉

伊事る遠根や三法くまをそと 葵和
いふ女の媚や梅咲流からる 素角

沼よ鴨湯の名蹟とせぬるる 素外

常世屋敷 佐中 赤松 とのこり

藤の根ぬり松めを智よふ 珍夕
癒るは蠲よ打もいふれも 壽角
さしはれと花新ししを袋は 素角

岡部六ふを暮 岡部 善徳とて

苔の花枝もくま思ふや 不角

世に成りし時句と通ふ蝶の姿 壽蘭

○下野

大叢山昆ゆつ天 是刊

夏山やちかるとも 誇りてめ 一る光

間々回

初夢うらまひも 國也ほつき次 霞曉

。室此八景 下野越社也 烟 六の三ろと禁す

弓くまの 詠から 弟や 妙い きれ 貞佐

烟何室此八景乃 乃くま 中 宝言

陽を やがの 乃くま 神の 場 素推

入梅 夢や 室此八景の 田乃 烟 意侍

只なる ぬる 系ふ 雨の 煙を 津安

日光山東照宮

私雨 慈恵心多 仏法傳
係 塗物類 羨ありし

あゝ青葉若菜此日の光り 芭蕉
 宵一天子才一照日杉乃花 冷々
 日尔流れて咲やけさう地相のお 津家
 威の満ちたやま方此時方らるま 探舟
 徳の凡らるこしよひけさる 雲風
 神宮あふる経のたや時代乃松 市仙
 治めまを春月此徳々ニ世瓦山 空糸
 木と涼し私ふくめあめの下 素外

山菱の橋

今云神像とせ

山菱れ橋やみ葉の刷毛細工

九室

索麩澁

若くは年 索麩と流すありし

日さくるとや索麩澁は汗入心 年月

霧降の澁

も烟き方の

傘かたもたき方好く澁時と今 菜水

東方禪の院を招所然り月 其礼

表身人の院

言ハニ夫斗身ハ心とめて院の
表身とてんこ

將付の院よりなりや高麗にありぬ
るものもさうさう院の流泉
父もやふ院に於て院の表
其のし院よりみふる也
素外

申禪寺

湖 庵 きれ 院

尾のふ院に於ては院に年終
日和を以ての院より乃申禪寺
其英

○馬場山

叢生 向中ニ 同者

刺野を馬場山より衣の
肩持や馬場山より衣の
馬場や馬場山より衣の
馬場や馬場の衣若乃花
老初るをありし馬場山
西外

名所初集下

高

遊汀柳

草部端 西汀のふらふらとせよ
草部端 西汀のふらふらとせよ

四一 枝 枯て なる 昔の 柳 一のふ 芭蕉
 泉 影 又 なる 人 誠 物 多 柳 かな 宗風
 柳 又 之 傍 水 只 見る 空 分 吏登
 柳 ち なる 傍 水 個 在 亦 なく 甚村
 去 柳 々 遊 汀 の 終 一 殊 存 徳 龜齡
 之 旁 れ なる 圓 の 人 亦 亦 信 宝言
 馬 七 汗 立 川 一 泉 影 柳 かな 津家
 言 子 是 終 之 よう こと 乃 柳 浪 素外

佛頂和尚山居

雲岸の奥山上の岩崖に

木は さいも 危 破 しく 匠 多 木 立 芭蕉

○出羽

宮上川

奥羽第一の宮上川に 仙人堂

五月 初 紙 茶 ぬ へ 守 じ 宮 上 川 芭蕉

暑き日城海不入り空上川 芭蕉
稲妻あはれ於流 空上川 板橋
き解や鶴も首ある空上川 素盞
勢鶴の及よまてくも空上川 雪言
秋此の紙のせりもあは川 不言
若き日舟も首ある空上川 津家

温海山

あはれきふくし 温海山

あつこき温海山 夕御原 芭蕉

湯殿山

意乃山・松の空

豊不とふ月おそお羽の湯殿山 一好
湯殿山や不滅乃松瓜夏歩 三好風
湯殿山はぬ湯殿不濡を枝か 芭蕉
湯殿山はぬ湯殿不濡を枝か 芭蕉

月山

雲はれぬ月山 芭蕉

羽黒山 念福院社

涼一さるはほの三ヶ月此羽黒山 芭蕉
有かすや雪と似せしすも中谷
かささし川もあのをねま山 吳龍

大沼浮橋

羽黒山極東佐原に有大小六十ふたふた
の名を松柏をふあある葉小生る
まき多秋うけて目あ又うかめらる風
まきこし又向いてまき風系名斜とせ

出ろ流くりにけて暖はし外 塘雨
ふろ此押をまじや流一り 希固

行月河原

眺か一尾 他山金山村橋を常
月流川

空又啼や行月かふ河を流 来風
名や傍心眺けりも秋の初り 来登

雄鹿島

秋田 岩屋松と大い松り山傍とて
あ中松のくは五色の自然をあり

初虹や橋又び川雄鹿の昔 朔四

寒風山

日本 多絶清山とて大はれもあしとせ
いあるるの風系松系系河に流りと云

六月や十一日山も雲も晴 朔四

鳥海山

六月法人多訪あり言山にお列太山 和列大峰のわし

毛、以、さ、く、ぬ、雪、此、羽、と、仰、也、智、海、
雪、解、や、浪、折、お、ろ、す、冬、乃、海、
冬、も、お、ふ、や、雪、は、万、里、北、方、の、海、
満、夕、を、鳥、海、山、乃、ハ、冬、も、あ、

鳥海

九十九の森 腰かけ 以のゆきゆく子 軒端寺 以哉 歌の巻

糸、四、の、目、や、流、人、乃、助、け、船、
お、や、秋、や、海、の、癒、子、や、時、中、臨、
糸、四、や、雨、よ、西、施、の、糸、ふ、れ、む、
汗、拭、や、衣、脱、ぬ、れ、て、海、涼、し、
夕、暮、れ、や、梅、不、涼、心、波、の、も、
西、行、梅、木、伝、の、雪、ふ、ま、控、と、
波、の、稍、実、れ、る、や、軒、の、お、梅、
糸、四、や、春、と、り、し、る、ふ、交、接、
腰、け、や、初、夜、静、の、ま、と、る、

紙空 柳障

くむむや乃雲々
父をきや蚊ももくくの雲の雨
百重
花露

吹浦

吹浦お出てもあつて乃ら云
源流

可きあつて

大内伏 水泉也
云云和尚姓と封をし云

一棒いゝも悪きもいゝぬ夏性
云風

○袖の浦 酒四

ミナリノ女や常衣仕務神の浦
云風

○陸奥

錦木塚

技の細布 海木 今八松野那
子云

海木もおあま陸やきうくに
海合ぬ空も響し塚の伝
津安

若州や校の細を綴る今 乙外

厨川

貞任の碑あり

見せしむる六月きし厨川 津安

岩手山

森。冥。圖。里。谷の埋木

二考うハ岩手山を名おほほきん 素連
風をまの雪れ岩手山を名おほほきん 津安

平白泉

言破田池

夏州や兵しもの夏北池 色甚
うたもよふ葉をふえゆ白毛外 芳良
古墳や柵と徳乃き田面 津安

夜川 冥蛙

秋風北破れ口何し夜川 室言
白毛やもて終ひてあらぬ河 津安

光堂

月夜常りあや三ひらの光堂 三島
 五月の月の輝り強し光堂 芭蕉
 下宮や杉は琥珀の光り光堂 津波
 木のち方残月を去り光堂 乙外
 志方ひく曲やじり光堂 宝馬
 光堂しる名も久々の光堂 素外

藤谷ヶや虫 昆沙門天

有が馬宮屋のち下殿乃汗 津波

小樽川 炭焼をそり田村

くれなる馬 橋の素野村らに 津波

師齒の仁 あれもの松尾・橋 素とめくハ後宮境内に

あひなるら 辰行木、山代の新 室言
 侍の仁なる奇神を風を言 津波

張冠橋

修練し 平家か修し びきまを 津安

荒草

あゝ 誇りもなき 以勢の 女目情 津安

金花山

砂金 金剛山。まね山かよ修し

あまのこ 一日の 酔也 金花山 不及
月二情 重なる 花さく 山乃こり 室有

白か〇し 花さくを 陸奥の 橋の 歩 津安

緒従乃橋

とてえの 橋也

は 舟しき えての 橋也 袂の 子 室有
五月 舟の くら 緒従乃 橋也 津安

松山

松ヶし 橋 坂 陰 甲 八 橋 まま

地を こと 追 波よ あゝ 舟月の 奴 室有
ゆゝ 宿 何れと まの 秋 北 京 梅 翁

松峯也何と煙くも月の柔 同虎
 ある中小雪ふ一糸をすりし雪
 床返りぬ雄雪をる春九月 活徳
 松峯やうへに女もあつて木を 柳藤
 松峯もかたけふ身とわかじ杜宇 芳良
 月小松女ふたふしし小可鳥 紫莖
 松峯もや海生乃伽羅と汎葉を 柳結
 茂みある千流の外やまの雪帽子 平妙
 松一白や四雪子の夕雪を月此雪 不言

松峯も我しと冬来ハ雪乃松 笠秋
 谷月や松の中雪此新千流 室る
 宇田山あり

松峯ハ心もふ雪より雪方此義
 松峯もふきの波乃秋の色 十友
 雨涼し借安此千松峯 津安
 初雪もし眼より足るや松流 玉圃
 雲流もる雪もくははいと秋 森曉
 表とらん心流くはけともこの松 乙外

博の世よ月さく松の流めらるゝ 素外

。塩竈の浦

六社大明神 神の塩竈
千賀の浦 塩竈二日名あり

月をいさか笑の塩竈力ふし 梅翁
夕月や花あもし千賀れ汐雲 未道
神波や再しあ賀のうら若と 又足
時をふく浦博ふも秋のちやう 室言
けらとある部角力やあ賀の秋 素外

。野田乃玉川

千巻

河の名乃玉や碎けそ花散 素健

。末の松山

今六寺とありしとそり抽の草

松山も波や揺りけさ月る 友聲
戦きつ雲末乃松山おきき次 乙外
岩き目も末のまの山さるるし 素健

。壺碑

市川村多賀城址

碑やげらぬく乃花のみら 室言
巡礼の書はくしてや玉の杖 素健
國史より事年句一も里路の秋 素外

十府 浦・菱菰

菱菰のまけはきおんきんを 室馬

○奥乃牧

ふみぢや人もたのしみも奥の牧 後橋

○宮城跡 在あゝのこ秋 秋軸の筆

宮城跡や春の涙ありよめま記 了首
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直
宮城跡や露乃碑く露乃玉 素直

木の下路 茶師堂

朔陰の雲や木の下露けゆる 宝言

奥の細道

秋枯てゑびの細道何処ぞ 惟然

。名取川 〇里。古湯。色は白濁あり

形は角力取なり 名取川 宝言

笠山鳥 藤中お実方塚 武蔵同名の名あり

笠山鳥ハツリこゝ月のぬりる 芭蕉
笠山鳥ハツリこゝ月のぬりる 宝馬
根よりの魂やまゆ 宝馬 津安

。武隈の松 古塚より二木不別れり

桐とるの松と二木の月哉 芭蕉
武隈や月も二木の月哉 宝言
心もろふ二木の松乃交ふに 津安

。奈古曾の扉

今や其実し名あせ此處 意得

伊達此大木戸 龍摺

龍摺の石も跡をれ父すみ 紐舟

跡をり此山此行迹此大木戸也 室言

目さうらや石も龍乃摺をい 素外

首松原

文ハ首の松原其もい 丸藤

西行菴田地 回示

筆や井乃石の庵此跡 漢家

鯖師匠五寺

坂塚の里 流友一家の石碑
義経其墓 示村の示あり

石も太刀も泉半月小飾此紙幟 芭蕉

石も太刀も石も、洞や苔乃也 津家

ちり柳名 〇あふの里 第馬川のそとに今八石此面乃
方下ニありと云

早苗とらふりち昔あふ柳 芭蕉

草あふ存も面やされあふを 宝三

菜の穴や畑はまて干ぬあふ柳 津安

ちれくや汗をる馬のあふ柳 高得

〇安達ヶ原馬塚 岩窟を
思鬼伝ハ此列ニ立郡と云

はのりまや鬼籠るとも夕納涼 維舟

若竹や安達ヶ原も鹿の角 乙由

いふちふ明く津を梅のふ 不言

〇吾田多良

とらふれあふりちあふり根 宝三

〇安積山 山の井 沼 ぶらり

安積山新や井あふりち 京 正業

先ひりあふりちあふりち 津安

いりちや安積の浪れ沼を帝 月成

かじりていささか露のほほし 宝馬
沼の面よほくも人の徳なせる 素外

阿武隈川 埋木七瀬 左隣同名也

父之北阿武隈川と押切ぬ 宝馬

白川の冥 二所の岸 徳正冥のほりまると

風流のはらめや奥北四柱唄 芭蕉
早苗よし我ふらふき目移り

うねりていささか露のほほし 素外
白川や岸よ冥のほりまると 東順
能國城後をうらふ秋の風 純亮
白川や岸の秋風吹をふし 素外
白川や風乃ほきりけの秋 宝馬
うら川の冥れを憶えとて 柳水
しとくやちと花よの二所冥 素連
思ふやけし顔とも形も冥れあ 津家
白川の涼よ通せ岸れを 素外

○常陸

○海波山。まきこの田井・海山まけ山 著新
あきの実 奇小意のふ多くより

枯ゆか海波をいしと沖の石 百里

夏筆やまると四方海波山あり 貞佐

海波うら流れておろし銀河 多岐

海波かりりや一葉を部公二世 未示

白雪の輝や双いの夕ほろを 百丈

父まや時をれて一息をくとも山 玉圃

うらまやおろし候の海波山 雨井

期まや思ひはくもも隔意 素外

○栗の田井

父軒やまはくしの田井小啼地 亀遊

○えふみ川 橋川 橋矣

流波狼の石や積りまは魚 風虎

秋の紅葉やうねなる心を梅川 三好
弟の鞋乃きけらやふけ来て路堂河
あきし庭より紅葉の様魚 弟梅
川もや名よ流れる梅川 角麻
川もやこころふ急れ初さう 素英

鹿嶋神社

浦。山。也。 久世松石はじし麻
石名はくくあり

余風動せしとあきるむせぬ麻草松 三好
白の木の音や氷くもく矢の松石

いし思ふ無情の春日移せし 素竹
人の代はつとてらん方はじし外 葵石
お中
鹿嶋のあきぬやあきの麻草松 津安

要石

石のあき 田永

あきの川や神日のりく乃要石 室言
神垣のまよれあき岩はじし 角麻
け石のぬんきくハ昔はと 湖月

花のこころ社地のまへに安石 素外

水戸海道

ほろほろのまへに安石とおもせ 山店

○下総

真間の楓

弘法寺堂前より

日蓮乃歌みとんえん若石 史邦

さしとふ涼しきまのたき梅

大木やまのれくはまら 楓 山店

まきともしまの間の後を星の橋 吉門

我よりふ涼しきまのたき梅 紫鳳

茂るまのたきまのたき梅 素外

。 結橋 井浦 八江

結橋や四軒とらぬとらぬ水 山店

往徳の流と小田のふり鶴部 史邦
 往徳乃西往やと此田乃と 嵐林
 往徳の往也くやけさ此田 春郊
 林さ此名も往とつ方の藤葉外 末道
 文ももはゆりの往徳神し丸 津富
 田を沼をさる往徳のさ月也 素外

園府巻

里見氏の必法恥をうきおこ

あ房乃と徳ししろふさもてさ木立 嵐林

切岸やうはまをくし一文ま 山店
 うき雪やたをよふれま風 史邦

同古戰場

いろちれはさなれとくしきま中 史邦
 幽冥の遊し西や花しけき 山店
 思をころおくかき石葉外 嵐林
 首塚や空ハ管此葉かくれ 史邦
 その塚も尖ふ咲くは花葉 史邦

首領や人もみまぬ夏草
紫風
縹緲の縁小向ふや古戰場

布施無賊天社

玉徳をくくろんえまや布施
其南
白糸とまゝハ流すれ布施の女
惟我

中紫の蹄 ぶのそがしハ

翠とむふや月のつゆふやま
文足

内蹄牧

春風やねくく教と内蹄牧
文足

池子浦

川や秋の霞めし群を池子口
素外

○上総

千種の濱

峯のふちをゆるし乃貝舟 貞知

矢さう浦 漁場

月のうらまふいけとやいづ雲 素外

雀寄 大倉津

初まを頼るに白き雀山鳥 龜仙

鳴山 長柄郡東海村に在る鳴山名也

鳴山や年ふ冬のぬけなる 龜仙

吉船村 日中武蔵東夷征伐の時難風あり

防ふふも負ふいづ猶き神の船 貞知

日月山 佐賀に在る日月山と云ふ所也

巖雲小風の光るや期月日 素人

赤人社 玉山郡 田中村

このま乃雪乃や山雲一郡 平砂

○安房

○師崎の雪

小湊より安房の雪に流るる日名を
此の國に亦名余ありしを

此の秋夢雪の流るる波のま 水竹

名所方角集坤之巻 終

一陽丹と人禰語名取方角集と
いふ小冊子二巻と編纂寸集
ふらふ及を授合はふありて
よとと托とやの道由未読不
の癖何なるも小陸西海乃
二道に、あといふ古試踏すとの余の
國く、いふとく、竹柳して勢

山川のありさま一境但温淳とあり
 といふ集又載る心と云ふは流石と采
 を以て産物と誤りしは向し亦其誤
 處之に阿菊多年の志を記せり
 丹津又稱せしと其高洋一室
 隨處して可後小書

安永四年乙未晚夏

東都書林申椒堂

日本橋北室町三丁目
 須原屋市兵衛藏板

俳諧明題集

徳信子撰

五冊

片歌

道林くめ
二葉同巻

徳信子撰 二冊

芭蕉桐の一葉

二冊

同草花より道日 一冊

其角雜談集

二冊

同舊宜集日 一冊

素園集

皇月平抄著

三冊

哥文要語日 一冊

硯乃筏

紀逸輯

二冊

はし書より日 一冊

岩手山

素園白扇著

二冊

寒葉齋畫譜日 五冊

根風亭山人著 五冊 水乃ゆく糸東作著 五冊

志道軒傳右門作 五冊 俳諧不斷高島の句 全

左傳屬事南陽先生校 廿二冊 大明十三省圖萬國一器界圖 二冊

龍門先生文集二編 三冊 歷代事跡圖大清呂君翰訂正 一冊

大疑錄貝原先生著 二冊 物類品平賀鳩溪著 六冊

經義折衷金我先生著 一冊 十體千字文 一冊

陸賈新語蘭臺先生校 一冊 六體千字文崑陸先生書 一冊

王元美尺牘 一冊 猿橋碑銘諸名家之文筆 一冊

易學辨疑金我先生著 一冊 字畫淵海筆法之書 二冊

大史萃句唐本翻刻 三冊 石印集誼彫刻刀法 二冊

拋入苑の園古人生苑乃呈式 三冊 寐惚先生文集 一冊

生苑千筋入江玉職 五冊 小說土平傳 一冊

古言様魚虎撰 一冊 笑府 一冊

百人一首解栗本氏 一冊 唐明詩鍵 一冊

文乃志海古和文の法解 八冊 大東地名箋 一冊

志乃不料理集 一冊 詩學小成 四冊

民間備荒錄 二冊 又平法帖杉茂堂 二冊

信濃地名考吉沢祐山 三冊 常盤帖日 二冊

七觀音經 全 療治茶談津田玄仙著 全

唐摹真本十七帖 全 外科撮要青木緬制子述 二冊

揖取先生社中之画 諸名公諸體畫詩 遊戲画帖全 西遊紀行 二冊

解體新書杉田玄伯著 五冊 四溟陳人詩集 三冊

同 約圖同右 五枚 郊華集 全

名物画譜雪溪先生筆 三冊 繪本いふは歌春信筆 三冊

市隱草堂集安文仲 五冊 繪本在浦乃時北尾重政筆 三冊

詩學楷梯東里先生輯 四冊 謙諧名所方角集谷素外輯 二冊

歐陽詢千字文戲鴻堂法帖翻刻 一冊 大成年代廣記 一冊

分間江戸圖鑑菊岡沾涼作 一冊 今日歌集望雲樓之狂哥集 一冊

古今句鑑 谷素外撰 四冊 文子 三冊

向風州 安文仲諸門人之詩集 二冊 四聲韻選 雲閣千葉先生 二冊

幼科種痘方 一冊 龍本三代帖 三冊

古詩絕句 一冊 翻譯萬國圖 并略說 平賀先生著

一陽井著述目錄

誹諧繪本 世都孔登起 全部三冊

誹諧名所方角集 全部二冊

誹諧古今句鑑 全部四冊

誹諧神釈行事解 近刻

東都書林 西村源六 須原屋市兵衛

平賀先生著

